

令和 6 年度
ゼミナール活動報告

尾崎ゼミ

2 年生（後期）

- ・ 自己紹介、卒論テーマ決め
- ・ ゼミ生全員と交流するために複数のグループに分かれてグループワーク
- ・ 先行研究の収集と読み込み
- ・ 集めた先行研究の紹介と今後の計画に関する個人発表

今年のゼミ生は複数のまとまったグループが既に出来ていたもので、テーマが近しい者ではなく仲良しグループが固まらないようにグループ分けを行った。

3 年生

- ・ 卒論テーマの研究計画書、序文の下書きに取り組む
- ・ 論文の基本的な書き方を学び各々のテーマの先行研究をまとめた
- ・ それぞれのテーマについての話し合い
- ・ 個人面談

夏季休暇までにテーマを固め、後期には序文の完成を目指したがテーマの決定はともかく序文の完成は未達成の者も見られた。

4 年生

- ・ 卒論の執筆に本格的に取り組む、3, 4 人ずつ発表、グループワーク
- ・ 途中経過報告（2, 3 年生も合同で中間発表）
- ・ 卒業論文の提出と口頭発表

後期開始までにはあらかじめ完成させ、その後推敲を十分に行うことを目標にしたが、各人の進行にバラつきがあり、期限ぎりぎりの提出になってしまう者も見られた。

金子ゼミ

●研究テーマ：【会計学】

財務諸表を用いた企業分析や公会計・財務会計の観点から、広く経済や企業の経営について学びます。

●活動内容

◆グループワーク（毎回）

基本は学年ごとに分かれてゼミを行います。授業の一部は他学年と一緒にグループワークを行います。会計学のテーマについての討論や就活について話します。

◆ゼミブログ（毎回）

各学年ごとに毎回のゼミでの活動をブログで報告します。

◆雑誌、新聞記事分析（不定期）

個人で興味のある雑誌や新聞の記事を選定し、3~4分程度で発表します。すべて個人で作業を行います。

◆合同ゼミ

他のゼミと合同ゼミを行います。（2024年度は中田ゼミと行いました。）

◆のびのび経済の論文執筆（3年）

公会計か財務会計のグループに分かれて4人前後で論文を執筆します。有価証券報告書・財務報告書などを用い、企業の特性や強みを分析または同業他社との比較をします。分析の指標を複数個行ったりフィードバックによる修正を行ったりし、論文を執筆します。

◆卒業論文の執筆（4年）

個人で卒業論文を執筆し、執筆した卒業論文は、懸賞論文に提出します。

櫻井ゼミ

主なゼミ活動は以下の通りです。

演習Ⅰ（２年生）

（１）文献の輪読

以下の文献の内容報告を分担して行い、グループワーク形式での意見交換を行うことを通して、著者の主張の意義や限界を協力してまとめた。

藻谷浩介・NHK 広島取材班『里山資本主義：日本経済は「安心の原理」で動く』角川新書、2013 年

（２）地方財政分析

それぞれのゼミ生が、自分にとって身近な市区町村の財政の現状と課題をまとめた。

演習ⅡA・ⅡB（３年生）

（１）グループ論文（５点）の執筆

（２）学習成果の発表：

以下の学外の学術大会においてグループ論文の発表を行った。

- ・第 64 回インナー大会（主催：日本学生経済ゼミナール関東部会、対面実施）

（３）就職活動に向けた共同学習

- ・エントリーシートの作成と意見交換
- ・模擬面接

演習Ⅲ・Ⅳ（４年生）

（１）卒業論文（18 点）の執筆

高橋（克）ゼミ

●研究テーマ：統計学

●活動内容

演習Ⅰ（2年生）

- (1) 『社会科学のための統計学入門』（毛塚和宏，2022，講談社）の輪読
数グループに分かれて、各章ずつグループで理解を深めて発表し合い、統計学の基礎知識を身に付けた。
- (2) 4年生の先輩から、卒業論文や就職活動についてのお話を伺った。

演習ⅡA・ⅡB（3年生）

- (1) 『人口と日本経済』（吉川洋，2016，中公新書）の輪読
4グループに分かれて各章を担当し、プレゼンテーション形式で理解を深めた。前年度に取り扱った日本の人口問題に対して、それまでとは別の視点から問題を捉え、原因や課題を分析した。
- (2) 『社会科学のための統計学入門』の輪読
前述した『人口と日本経済』と同様に、4グループで各章ごとにプレゼンテーションを行い、輪読を進めた。統計学について、基礎的な用語や知識から、データの分散などの計算方法や回帰分析に至るまでを学習した。また、重要な部分に関しては、別のテキストも用いながらより時間をかけて勉強していった。
- (3) 統計検定の受験
前期または後期の期末課題の選択肢の一つとして、統計検定3級の取得を目指し、実際に多くのゼミ生が合格した。

演習ⅢA・ⅢB（4年生）

- (1) 卒業論文の執筆
個人で卒業論文を執筆し、授業では他のゼミ生に向けて研究内容について発表し、ゼミ生同士での意見交換や先生からの指導を頂き、卒業論文を完成させた。

田原ゼミ

【田原ゼミと全体の活動】

私たち田原ゼミは、人口減少社会における社会保障やまちづくりについて学んでいます。

普段のゼミは3学年合同で授業を行っており、主に4年生は卒論の報告、2・3年生は渋谷をフィールドとしたグループワークや新聞記事報告、卒論制作に向けた文献報告などを行っております。

加えて、学外での研究活動や地域連携活動も積極的に行っております。今年度は一般社団法人渋谷駅前エリアマネジメントとの共同研究として、「渋谷リバーストリート」周辺の回遊性調査を実施しました。また、地域の住民、事業者、行政の方たちとともに渋谷リバーストリートで開催する「渋谷三すくら祭」の企画、運営にも参画し、地域社会の実情を現場で学んでいます。「渋谷巡検」では100年に一度の大規模な再開発が進む渋谷の現状と、田原ゼミがかかわりの深い「渋谷リバーストリート」について学び、実際に足を運ぶことで理解を深める機会となりました。

【活動内容】

〈2年生〉

ゼミで実施した「渋谷リバーストリートの回遊性についての調査」と「渋谷区の住宅確保要配慮者に関する調査」のデータに基づいてグループワークを行い、ゼミ成果発表会で報告しました。あわせて各々がゼミのテーマ(地域経済や社会保障)に関連した新聞記事を読み込み、レジュメにまとめ、発表をすることでそのテーマに関する知識を深めました。

〈3年生〉

「渋谷巡検」を企画、実施しました。都市の変化を肌で感じるこの巡検は、今後のゼミ活動において渋谷との関わりをさらに深めていくためのきっかけとなりました。後期は各自で卒論テーマ検討や文献調査を行い、報告しました。

〈4年生〉

社会保障や地域活性化といったテーマに基づいて、各々が関心のあるテーマについて調査研究を行い卒業論文を執筆しました。

今年は「生産緑地に対する周辺住民の評価 - 横浜市青葉区新石川地区を事例に - 」
「官民連携都市公園による再整備・管理運営実態と公園利用者の回遊行動から見た周辺地域への波及効果について - 渋谷区立北谷公園を事例として - 」
「メタバースを活用した地域ブランドの構築に関するモデルの提案」等の論文が作成されました。

中馬ゼミ

本ゼミのテーマ：

『グローバル経済の中で深刻化する経済・社会格差問題』

グローバル経済の展開と密接に関わりつつ深刻化する経済格差や社会的差別の要因・現状分析、ならびにそれらを踏まえた「オルタナティブな経済を模索する動き」の研究を主題として活動してきた。

【2 年生】

一年次基礎演習 A で学んだアカデミックスキルをおさらいし、個人で興味がある論文を探し、書評論文を執筆した。

【3 年生】

（前期）ゼミ成果発表会・卒業論文に備えて論文の書き方を学んだ。また、3 チームに分かれ、一つの論文要約・考察を執筆し発表をした。

（後期）ゼミ成果発表会に向けたグループテーマに関する研究を行い、ゼミ成果発表会に参加した。その内容を踏まえ、個人で12000字程度の自由論文を執筆した。

【4 年生】

卒業論文執筆

辻ゼミ

辻ゼミでは、学生の主体的な学習コミュニティの形成を目指して個人研究や文献発表のほか、産学連携プロジェクトなどに意欲的に取り組んだ。

【ゼミのテーマ】 人的資源開発・組織開発

【授業内容】

■2年生ゼミ(3期生：男子8・女子8名、計16名)

①課題図書：本年度は『非認知能力：概念・測定と教育の可能性』(小塩真司, 2021. 北大路書房)に取り組んだ。担当章を定め、グループワークを盛り込んだワークショップ形式で発表した。聞き手が主体的に内容を深く理解できるような工夫を試行錯誤した。

②個人研究発表：卒業論文の最初のプロセスとして、「興味のあること」に焦点を当てた発表を行った。スライドや動画を活用し、オリジナリティ溢れる発表になるよう工夫した。

■3年生ゼミ(2期生：男子7・女子10名、計17名)※うち2名留学中

①課題図書：前期は英語文献『Foundation of Human Resource Development』(Swanson・Holton, 2008. Berrett-Koehler Publishers)の一部を取り上げ、担当者が和訳をして発表した。また、卒業論文執筆に向けた研究方法を学ぶワークショップも行った。後期は自己肯定感、コミュニケーション、チームビルディングの3つのテーマに分けて文献を読み込み、ワークショップを企画、実践を行った。発表の中に寸劇やミニゲームなどの工夫を凝らし、主体的に学ぶ環境をデザインした。

②卒業論文研究：教員やゼミ生同士で相談をしながらテーマや研究計画を立て、先行研究の読み込みをして部分的に執筆にも取り組んだ。(執筆担当：三村華子)

■4年生ゼミ(1期生：男子8名・女子7名、計15名)

①ワークショップ企画：4グループに分かれてオリジナルワークショップの企画、実践を行った。新しい学びの方法を模索し、創造的な場を作りを上げた。

②卒業制作：これまでのゼミ活動の振り返る雑誌の企画編集に取り組んだ。ゼミ生が数グループ分かれて担当章を決め、読みやすさやデザイン性を考慮しながら制作した。

③卒業論文執筆：4年間の集大成である卒業論文の完成に向け、ゼミ生同士で個人研究についての議論と相互フィードバックを繰り返した。教員にも随時、フィードバックをもらい、締め切りまでに提出した。(執筆担当：野田大夢)

■その他の活動：その他の活動として、2、3年生は比企起業大学の起業家やPOLA株式会社との産学連携プロジェクト、立教大学・関西大学との合同ゼミなどを行った。

手塚ゼミ

■ テーマ

成長戦略研究 ビジネスプラン

■ 演習Ⅰ（2年生：男子9名、女子9名、計18名）

輪読を通して経営戦略に関する知識をインプットし、事例分析を演習(プレゼン)という形でアウトプットすることで、理論の理解と実践を行った。輪読では網倉・新宅『経営戦略入門』（日本経済新聞出版）の「経営戦略の基礎概念」と「競争戦略」の範囲を読解した。担当者2名が1章ずつ要約したレジュメを事前に作成して発表し、4人班に分かれて発表担当者が与えた論点の討議と全体共有を行い、最後に先生から解説をしていただいた。演習(プレゼン)では輪読で学習したフレームワークを用いて、①差別化戦略とコストリーダーシップ戦略の企業比較、②戦略キャンバスの作成、③別途配布された事例資料に基づいた企業分析と戦略考案を4人班でプレゼン資料にまとめて発表した。

■ 演習ⅡA・ⅡB（3年生：男子11名、女子7名、計18名）

前期の前半の演習は、同業界2社の環境分析と新規事業提案を1チーム4～5人で2チームずつに分かれて実施した。外部・内部環境をフレームワークで分析し、課題を明らかにしたうえで、新サービスを考え、授業時に発表しあった。後半は、新しいチーム編成でキャンパスベンチャーグランプリの東京大会に参加し、自分達で新事業を考え、1からビジネスプランを作成した。

後期の前半は、上場企業の中長期戦略を同業と比較し評価した。後半は、メンバーを入れて替えて武蔵大学ビジネスプランコンテストに参加した。そこでは、日々の困りごとからテーマを見つけ、今まで培ってきた知識を活用し、新規事業を作成した。加えて卒業論文に向け、個人でテーマを検討しながら準備を進め始めた。

■ 演習ⅢA・ⅢB（4年生：男子6名、女子8名、計14名）

4年次は、年間を通じ卒業論文の作成に取り組んだ。授業はパワーポイント資料を作成し、質疑応答形式のフィードバックを基に文章化することで進めた。授業内において計6回の発表と仮提出、個別指導、プレ提出を経て期限内提出を目的に卒業論文の作成に励んだ。

春休み中には各自が研究したいテーマに関する事前調査を行い、初回授業で発表を行った。前期には、夏休みの本格的な調査に向けて研究目的や研究課題のブラッシュアップを行った。その間、テーマを変更する者も多くいたが計4回の発表によりテーマを確定させた。後期には、夏休みの課題(6,000字程度)を基に前期と同様に発表と文章化を繰り返した。12月頃より個別指導により卒業論文の仕上げ作業を進めた。

中泉ゼミ

私たちの学習・研究の主要なテーマは、「ビジネス・エコノミクス」とか「経営経済学 Managerial Economics」といわれている分野です。

2 年生では、株式会社を念頭に価格戦略のありかた、完全競争、ゲームの理論など、経営戦略にかかわる経済学の初歩を学びました。その後、「企業研究」と題して、各自が関心をもった企業について最近の動向を報告しあい、その中から担当教員がピックアップした企業の戦略について、学習済みの経済学の知識でどのように説明できるかを議論しました

(例:ピザハットの経営戦略と業界トップを目指す方法)。

3 年生の前期では、2 年生で学んだことを復習したあとに、市場構造と各企業の競争(事業)戦略の関係、参入障壁と参入阻止行動、コミットメント戦略の意義などを学び、一応、「経済学から見た経営戦略の学習」を(かなり不完全ですが)終了させました。

なお、以上の学習・研究では、3~4 人チームのグループ学習が重視されました。

9 月には、4 年生、3 年生合同の集中セミナーを実施しました。集中セミナーは、当ゼミ唯一の 3 年生と 4 年生の学問的な交流の場で魂 4 年生は卒業研究の中間報告、3 年生は夏休み中に(これまでとは真逆?で)「経営学の先生が書いた経営戦略論」のテキストを題材に、主に競争(事業)戦略の学習・研究を開始し、セミナーでは、その内容の報告をしました。4 年生の報告についてはコメンテーターを割り振って相互に議論しあうだけでなく、3 年生も質疑に加わりました。3 年生の報告では、すでにその知識のある(はずの) 4 年生がつっこみをしました。

3 年生の後期には、夏休みおよび集中セミナーから開始した「経営学者による(言い方をかえれば、本流の)経営戦略論」の学習・研究を継続し、主に「多角化」にかかわる経営戦略(全社戦略)を、報告と質疑(全員が発言)を通じて学びました。2 年生から 3 年生前期までに学んだ「戦略の経済学」と相互に照らし合わせながら、批判的に理解を深めるという姿勢で臨みました。後半にはプラットフォーム型のビジネスについて学習・研究しました。冬休みには、卒業研究に向けた準備を開始し、最終回には、研究テーマ、関連して集めた資料等について全員が発表しました。

4 年生は、卒論をメインに活動していました。

中田ゼミ

中田ゼミは、前期は2学年合同、後期は3年合同でゼミを行っています。2024年度の各学年の活動実績は以下のとおりです。

(1) 演習 I (2年生・後期)

- ◆ マイナビ主催「課題解決プロジェクト」への参加
- ◆ 企業分析
- ◆ 根岸ゼミ・宮下ゼミとの合同ゼミ（内容：マイナビ主催ビジコンの発表）
- ◆ 教科書発表：①「世界一楽しい決算書の読み方（実践編）」（大手町のランダムウォーカー著、KADOKAWA 出版）、②『この1冊ですべてわかる経営戦略の基本』（日本総合研究所 経営戦略研究会著、日本実業出版社）

外部コンテストの参加、他ゼミとの合同プレゼンなど良い経験を積むことができました。教科書を読み込み、発表を行うことで、既知の知識の復習と、今後のゼミ活動における知識を修得することができました。

(2) 演習 IIA・IIB (3年生)

- ◆ 企業価値評価
- ◆ 「神奈川産学チャレンジプログラム」への参加
- ◆ 金子ゼミとの合同ゼミ
- ◆ 3大学インターゼミへの参加（高崎経済大学、武蔵大学）
- ◆ 経済学部ゼミ成果発表会への参加
- ◆ 『のびのび経済』グループ論文の執筆

残余利益モデルを用いた企業価値評価のやり方を学び、企業分析を行いました。産学チャレンジプログラムでは5チームで参加しました。インターゼミ・ゼミ成果発表会では、企業分析や不正会計などの発表を行いました。また、その内容をグループ論文として『のびのび経済』に投稿しました。

(3) 演習 IIIA・IIIB (4年生)

- ◆ゼミ内プレゼン大会（2・3年生が投票）
- ◆卒業論文執筆

前期は就職活動を行いながら、テーマの選定をし、卒業論文の執筆を行いました。随時グループ内で報告し合いながら、ゼミ内でも適宜全体報告をしました。

(4) ゼミ合宿（2023年度スプセ、2024年度サマセ）

- ◆ビジネスゲーム

・スプセとサマセは、大学での対面実施と合宿とで行いました。（スプセ：2泊3日、サマセ：1泊2日）

根岸ゼミ

研究テーマ

根岸ゼミでは、政府部門に軸を置き、現代社会における社会経済問題を解決するという観点から研究を進めています。2年生、3年生はグループ単位で活動し、グループ論文を作成します。4年生は個人で卒業論文を作成します。

演習Ⅰ(2年生後期)

(1)「2024 りそな・EXPO2025 SDGs アイデアコンテスト」への参加

2024 りそな・EXPO2025 SDGs アイデアコンテストでは、「地域課題解決×イノベーション」が課題テーマでした。ゼミ生が4人、4チームに分かれ、チームごとに課題テーマについて解決策を考案し、資料を提出しました。ゼミ活動で初めて参加するビジネスコンテストになりました。

演習ⅡAB(3年生)

(1) 2つのビジネスコンテストに参加

1つ目は、一般社団法人 ICT マネジメント研究会・学生小論文アワードです。3年生になる直前の春休みに取り組みました。課題テーマ「社会問題の解決と ICT および生成 AI の展望」に対し、小論文部門で3チーム、エッセイ部門で1チームが参加しました。小論文部門で1チームが優秀賞を受賞しました。この論文は ICT マネジメント研究会『懸賞論文集』2023年第5号に掲載されました。

2つ目は、神奈川産学チャレンジプログラムです。20 を超える企業課題の中から、チームで1つを選び取り組みます。取り組む期間が4月から11月と長期的に渡るため、スケジュール管理と準備がとても重要になります。ゼミから4チームが参加し、2チームが最優秀賞、1チームが優秀賞を受賞しました。

3つ目は、ゼミ生が参加するコンテストを選んだ「地方創生☆政策アイデアコンテスト」と「資産形成学生論文アワード」、「日銀コンテスト」です。それぞれに2チーム、2チーム、1チームが参加し、グループ論文や企画書を提出しました。これらでは、入賞できませんでした。

(2) 業界分析の発表

就活において自分が調べている業界や志望している業界をまとめて発表しました。他のゼミ生がどのような業界を志望しているのかを知り、就活における視野をさらに広げることができました。

(3) 卒業論文の先行研究発表

卒業論文のテーマを決めそのテーマについて研究し、ゼミ全体に発表します。自分の卒論をどのように進めるべきなのか、どんなことを書くべきなのかを、ゼミのメンバーや先生に指摘してもらい、3年生の春までに第1章を書き終えることが目標です。

演習ⅢAB(4年生)

(1) 卒業論文作成

根岸ゼミでは第1章を3年次に書き終えるため、4年次は第2章から取り組みます。卒業論文の発表は、すべてワードファイルで文章を作って行います。発表者は発表日2日前に作成した文章をゼミ全体に共有をします。ゼミ生全員が共有された資料を事前に読み、ゼミでは質疑応答を中心に議論を行います。4年生の一年間、卒論作成、質疑応答を繰り返すことで、発表者の卒論の質が上がるだけでなく、質問者側も成長します。

卒論作成のプロセスが根岸ゼミでの学びの醍醐味です。

芳賀ゼミ

●研究テーマ：マーケティング(特に、消費者行動論)

●基本活動

木曜 4 限・5 限・6 限

●ゼミの進め方

ゼミでは「マーケティング」のうち、消費者がなぜ買うのか、いつ買うのか、何を買うのか、どのように買うのかについて「消費者行動論」といった心理学と関連の深い分野を中心に研究を深めている。本ゼミの取り組みとしては、消費者視点からマーケティング問題（新製品開発、広告コミュニケーション、ブランド戦略 etc…）について、グループないし個人で研究を進めている。具体的には、ネットあるいは新聞・雑誌の記事を使った情報収集や市場分析から始まり、調査(店頭調査、発売中の商品の調査、実食調査など)に加えて、マーケティングリサーチを踏まえたプレゼンテーションを重ねている。

●活動内容：

<2 年ゼミ-4 期生>

主に HAD というフリーの統計分析用プログラムのソフトを用いて統計的な分析方法を学んだ。毎回習った分析方法ごとにグループワークを行い、アンケートを実施した後に分析を行い発表するということを3週間ごとに行った。具体的な内容としては回帰分析、クラスター分析などが挙げられる。分析方法を身につけることは難しかったが、グループメンバーと話し合いながら、和気藹々とした雰囲気の中で分析することができた。分析テーマも多種多様で、大学生の成績という勉学に関するものから、好きな芸能人の写真を用いた男性の髪型に対する印象調査、スタバや学食メニュー評価といった飲食関連のものなど、ゼミ生が好きなテーマで分析が行われた。その後の発表では先生からフィードバックをもらい、より一層理解を深めることができた。今後の産学連携でより発展的な分析に活かしていきたい。

<3 年ゼミ-3 期生>

前期はグループごとにアカデミックな研究に取り組んだ。具体的な内容としては、ゼミ生へやりたい研究のテーマをアンケートで集計し、それが一致した班で研究を進めた。その班で日常の中や、論文を読み進めていく上で発見された疑問を解消するために、フリーソフト「HAD」などを用いて、分析を行いパワーポイントにまとめた。最終的には他大学との合同ゼミで発表を行い、研究を終了した。

後期は産学連携を実施し、関西テレビ放送株式会社と共同で研究に取り組んだ。前半のテーマは「若年層を中心としたテレビと視聴行動の変化について考察する。」であり、後半のテーマは前半で得た知見を基に「某バラエティ番組についての試聴行動分析に取り組む。」というものであった。具体的な内容としては、前半は私たちの視点だからこそわかる、テレビ業界への疑問や、テレビへの意識の変化についての調査を行った。前期と同じく分析を用いた研究を行い、中間発表では関西テレビ放送株式会社に発表をした。その中でいただいたフィードバックをもとに後半の研究へと繋げた。

<4 年ゼミ-2 期生>

前期および後期にかけて卒業論文に向けての執筆についての各プロセスを経て、卒業論文に取り組んだ。

橋元ゼミ

前期は、日本経済読本[第 22 版]の輪読を通して、日本経済の歩みと今日の日本が直面している様々な問題についての理解を深めました。

また、日銀見学や麒麟ビール工場見学、夏合宿時に東日本製鉄所鹿島地区の見学を行いました。

後期は卒論の報告と質疑応答を行い、卒論の質の向上に取り組みました。



6 月 麒麟ビール工場見学



9 月 東日本製鉄所 鹿島地区見学

林ゼミ

【ゼミのテーマ】

医療経済学：医療を通して日本の経済とビジネスを学ぶ

【活動内容】

林ゼミでは、医療を切り口に現代日本社会への問題意識を深め、経済学の理解を通して論理的思考力と分析力を高めることを目的に、理論と実践の両面から様々な取り組みを行っている。まずは、基本的な論理力を高める目的で、専門書の輪読をゼミ活動の基本に据えている。

● 2年生の内容

2年生では、まずは経済学の基本をきちんと学ぶことを目的とし、マンキュー「経済学入門 第3版」東洋経済新報社を輪読した。概ね1人10ページ程度をパワーポイントにまとめ、毎週2、3名からプレゼンテーションを行ってもらい、メンバー全員で議論をしながら理解を深め読み進めた。単に読み進めるだけでなく、各章で扱っている内容と現実の日本経済やビジネス、あるいは医療との関連性についても議論を展開した。

● 3年生の内容

3年生では、経済学というスコープで医療という問題をどう捉え、解決への糸口を考えられるかをテーマとし、細谷・増原・林「医療経済学15講」新世社を輪読した。輪読の方法は2年生と同様であるが、より医療制度の知識を高め、医療問題への理解を深めるべくメンバー全員で議論を展開した。また、次年度の卒業論文のテーマを考えるため、まずはメンバー各自で興味のあるテーマについてレポートを作成し、卒業研究に向けた準備を進めた。

【病院見学会と企業講演会の実施】

輪読とは別に、実際によりリアルに理解を深めるため、2年と3年の希望者を対象に、病院見学を実施した。具体的には、高度急性期を担う大学病院の「東京医科大学病院」と在宅医療の先駆的な病院である「おうちにかえろう。病院」の見学会を開催した。「おうちにかえろう。病院」からは、2、3年生それぞれを対象に講演会も実施して頂いた。

さらに3年生に対しては、医療ビジネスの実際や就職意識を高める目的で、医療系の東証プライム市場上場企業の「株式会社エラン」を招き講演会を実施した。

2025年度には、渋谷区の医療の中核を担う「日本赤十字社医療センター」や、日医工のM&Aなど近年医療に大きく貢献しているPEファンド「ジェイ・ウィル・パートナーズ」にも協力をいただく予定となっている。

藤山ゼミ

藤山ゼミでは、基本的な本の読み方を身につけつつ専門的知識を獲得するための輪読と、授業や輪読を通じて学んだフレームワークや理論を応用するための研究プロジェクトを実施した。

■ テーマ

組織論、戦略論、イノベーション論

■ ゼミの内容

輪読に関しては、前期は3,4年生が合同で、後期は2,3年生が合同で行った。研究プロジェクトに関しては、4年生は年間を通じて卒論の研究発表を行った。その他の学年は、前期は3年生だけで、後期は2,3年生合同で研究発表を行った。

● 前期

輪読に関しては、3,4年生合同で『ビジネススクールで教える 経営分析』（太田康弘(2023),日経 BP)を毎週1章ずつ輪読し、それを読み終えた後は『恐れのない組織 「心理的安全性」が学習・イノベーション・成長をもたらす』（Amy C. Edmondson 著,野津智子訳(2021),英治出版)を同じく毎週1章ずつ輪読した。ゼミ生全員が書籍を読み、該当章の要約と展開、批判を考えてくることで、理論の学修と現実の見方の習熟を進めた。

研究プロジェクトに関しては、4年生は卒業論文の研究を行った。週に4人程度が報告担当となり、ワードにまとめた進捗をゼミで発表した。それに対してゼミ生全員がコメントをすることがルールとされ、様々なコメントを受けながら論文を改善することに取り組んだ。3年生は2年生後期より進めている研究プロジェクト(事例分析)の研究報告を各班、3週に1回程度のペースでパワーポイントを使って行い、それに対して他の班がコメントや質問をした。それが終わった後は、12月のゼミ成果発表会に向けた研究プロジェクトを始動し、同じように進めた。

● 後期

輪読に関しては、2,3年生が合同で『数字のセンスを磨く データの読み方・活かし方』（筒井淳也(2023),光文社)を毎週2章ずつ輪読し、それを読み終えた後は『市場を創る バザールからネット取引まで』（John McMillan(2002),瀧澤弘和 木村友二 訳(2021),慶応義塾大学出版会)を同じく毎週2章ずつ輪読した。授業の進め方は前期と同様である。

研究プロジェクトに関しては、2年生は3年生の進める研究プロジェクト(ゼミ成果発表会)の研究発表を聞き、コメントや質問をした。3年生は前期に引き続き、ゼミ成果発表会の研究報告を行い、それに対して他のゼミ生がコメントや質問をした。ゼミ成果発表会が終わった後は、卒業論文の頭出しを行った。4年生は3限と4限にかけて卒業論文の研究発表を行った。授業の進め方は前期と同様である。

星野ゼミ

テーマ 『経営戦略や事業創造を中心とした経営学』

2年生は輪読を中心にグループワークなどを行った。3年生は輪読、神奈川産学チャレンジ、ゼミ成果発表会では異なったメンバーでのグループを作成・活動をした。4年生では就職活動と卒論の作成・発表を行った。

活動内容

2年 6限 輪読 「小倉昌男 経営学」

3年 4限 輪読 「ケースに学ぶ経営学」

神奈川産学チャレンジ

ゼミ成果発表会

就活・卒論について

4年 5限 卒論作成・発表

細井ゼミ

本ゼミは、2年生1人、3年生4人、4年生3人が所属しています。研究内容は国際経済、国際経営です。2年次には英文テキスト *The Asian Economy* の理解、3年次にはビジネスケースについての討論や、卒論を見据えてそれぞれの興味のある分野についての研究を進めていきます。毎回のゼミで、発表者に対して先生と学生でフィードバックを行います。

9月には海外研修としてインドネシアに行き、学生が企業に連絡を取り、全5社を訪問してゼミで学んでいることを実際に自分たちの目で見ることができました。

水無田ゼミ

演習Ⅰ（２年生）

- ・ 講義内容についてのディベートを行い、理解度を測った。
 〈講義内容〉
 カルチュラルスタディーズ・消費社会論
- ・ テキスト読解報告
 ： 自分がどれくらいの時間でどれくらい説明できるかの練習機会となった。
 〈テキスト〉
 水無田気流『多様な社会はなぜ難しいか 日本の「ダイバーシティ進化論」』
- ・ 各自の研究テーマに沿ってゼミレポート作成（3000 字程度）

演習Ⅱ（３年生）

- ・ Academic Writing を通して、研究計画書の作成を行った。
- ・ ゼミ論報告 short version
- ・ ゼミ論報告 long version
- ・ 各自の研究テーマに沿ってゼミ論文作成（10000~20000 字程度）

演習Ⅲ（４年生）

- ・ 卒論報告 short version
- ・ 卒論報告 long version
- ・ 各自の研究テーマに沿って卒業論文作成（20000~40000 字程度）

（演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ合同）

- ・ フィールド実習：大宮鉄道博物館「鉄道写真詩コンテスト」トークイベント

宮下ゼミ

【活動内容】

私たちのゼミは「現代企業のマーケティング」をテーマに、国内外の企業のマーケティングや消費社会について学んでいます。普段のゼミ活動は学年別に行っていますが、半期に2～3回ほど複数の学年が合同で研究報告会を行っています。

2年と3年はインプットしたマーケティング知識をアウトプットする場として、外部コンテストに出場しています。プロジェクトは1.5ヶ月ほどの短い期間なので、短期集中で仲間と切磋琢磨することができました。また、令和5年度は、2年、3年、4年がそれぞれ広告制作（キャッチコピー）に取り組みました。

また、プロジェクトと並行し、2年生は基礎的な教科書をインプットし、3年生は専門書と「日経MJ」（新聞）を毎週、要約して発表します。

4年生は卒業論文の執筆に専念します。また、卒業生の方数名が来校してくださり、貴重な話をしてくださいました。以下が各学年の令和5年度の主な活動内容です。

●2年生

- ・個人の作品：広告の機能と特徴を学び、「キャッチコピーコンテスト」に作品を投稿
- ・外部コンテスト：ビジネスコンテスト（グループで参加）
- ・教科書を用いた発表

●3年生

- ・個人の作品：広告の機能と特徴を学び、「キャッチコピーコンテスト」に作品を投稿
- ・輪読・発表
- ・「日経MJ」を用いた発表
- ・個人研究：新しい商業施設を提案
- ・外部コンテスト：次世代店舗をテーマとした企画コンテスト（グループで参加）

●4年生

- ・卒業論文の執筆
- ・日経MJを用いた発表
- ・ゼミの後輩にむけた就職活動の報告会

山本ゼミ

●研究テーマ：経済地理学・都市地理学

●ゼミ活動日：毎週木曜日 5 限・6 限

●活動内容

【2 年生(演習Ⅰ)】

ゼミのテーマである経済地理学について理解するため、指定された学術雑誌から論文を選び、専門用語や現状の問題についての知識を蓄えました。その後、要点をまとめたうえでレジュメ・パワポを作成し、発表を行いました。発表時には他のゼミ生と先生から質疑応答・講評をしてもらい、今後の課題点や自らの見解についても理解を深めることができました。

加えて、卒業論文の大まかな方向性やテーマを決めるため、年末年始の休暇中に論文を 10 本読み、それを発表することで、自分の興味関心について再確認することができました。

活動の成果として、経済地理の興味のある分野を探ることができ、卒業論文の作成に向けた準備を行うことができました。

【3 年生(演習ⅡA・B)】

2 年生の時に行った活動を踏まえ、各自が卒業論文のテーマを決定し、本格的な執筆に着手しました。授業日には進捗状況を共有し、先生からの指導やコメントを受けながら、研究を進めました。

加えて、2 年生の論文発表時の司会を務め、論文選びや資料作りについての相談にも乗り、後輩たちの学びをサポートしました。また、発表内容に対するフィードバックや議論の場を提供することで、ゼミ全体の学習効果を高める役割も果たしました。

活動の成果として、3 年生全員が卒論のテーマを決めることができました。

【4 年生(演習ⅢA・B)】

就職活動と並行しながら、各自で調査対象地域に赴き、アンケート調査やインタビュー調査を実施して、情報収集を行いました。

また、3 年生の時と同じように先生からの指導・コメントを受けながら、データの分析や考察についての理解を深め、卒業論文の完成に向けて取り組みました。

活動の成果として、4 年生全員が卒業論文を作成することができました。